



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	GC富士小山工場 新工場	BEE	2.1	BEEランク	A
				★★★	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点		取組み度		評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5			ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6	/5			ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.8	/5			ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5			がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例		よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
				がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.8
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①居住域空調 ④内外装の維持管理の容易な材料採用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥敷地内植栽の保護、風通しの良い建物配置計画 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦外装の高断熱化、太陽光パネルによる日射遮蔽。 ⑧自然通風、自然採光利用、再生エネルギー(太陽光パネル)。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩中央監視の導入による設備運転管理、エネルギー管理。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑬工場全体での井水利用。 ⑬ノンフロン断熱材の採用 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	LR-1 1 2 3	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰空調等のバックアップ機器、受水槽2槽化などの事業継続化対策 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲生産機器との同配置によるゆとりある階高設定 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ②敷地内既存植栽の残置による生物環境の保全 ②企業の環境イメージを表現し、植栽などの周りに溶け込むデザインされた外観 ■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 2 2 3 3.2 LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	㉒ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ景観への配慮 ㉔ 敷地内温熱環境の向上 ㉕ 持続可能な森林から産出された木材 ㉖ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE®-建築(新築)2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GC富士小山工場 新工場	階数	地上3F
建設地	静岡県駿東郡小山町	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、市街化調整区域	平均居住人員	18 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年2月26日
敷地面積	49,266 m ²	作成者	建築エネルギー研究所
建築面積	1,318 m ²	確認日	2024年2月27日
延床面積	2,174 m ²	確認者	坂茂建築設計

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健) 2.3
4(教育) 2.3
5(エンダー) 2.0
6(水・衛生) 2.4
7(エネルギー) 2.5
8(経済・雇用) 1.9
9(イノベーション) 1.8
11(都市) 2.3
12(生産・消費) 2.5
13(気候変動) 2.3
15(陸上資源) 1.9
17(実施手段) 2.0

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

音環境 3.0 温熱環境 3.8 光・視環境 3.1 空気質環境 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

機能性 3.5 耐用性 3.2 対応性 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

生物環境 3.0 まちなみ 3.0 地域性 3.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.7

建物外皮の 5.0 自然エネ 4.0 設備システ 5.0 効率的 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源 3.0 非再生材料の 3.0 汚染物質 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

地球温暖化 5.0 地域環境 3.0 周辺環境 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。一般的な工場のイメージである無機質なコンクリートの箱ではなく、サステナブル建築をテーマとし、再生可能エネルギーを利用するためソーラーパネルを設置した。また、周辺環境が緑豊かな山間であることから、外観は景観に馴染むよう可能な限り建物高さを抑え、ソーラーパネルは緑色の特殊なセルを用いて景観に配慮している。		その他 0
Q1 室内環境 ・生産機械のための高い天井や空間、電源・空調などのユーティリティの拡張性を考慮した計画としての。	Q2 サービス性能 ・災害時の継続性に配慮し、各種設備機器のバックアップなど信頼性を高める計画としている。 ・粉体を扱うため、内装などは清掃が容易な材料などを採用している。	Q3 室外環境(敷地内) ・敷地全体を緑化し、地表面の温度上昇を抑えている。 ・空調室外機は計画建物から離して設置し、排熱の影響を低減させている。
LR1 エネルギー ・建物外装全体に太陽光発電パネルを設置している。 ・高効率な空調機器、LED照明などを設置し中央監視にて細かく制御している。	LR2 資源・マテリアル ・今後、リサイクル材や敷地内の植栽を再利用することを検討する。	LR3 敷地外環境 ・水光熱費の削減によりライフサイクルCO ₂ の低減化を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される